

バドミントン選手のパーソナリティ特性に関する研究

Research about badminton player's personality

1K08B055-2 片山佳菜

指導教員 主査 関一誠 先生

副査 山崎勝男 先生

<目的>

スポーツ選手の一般特性として、外向的で明るく、社会性があり、支配性を示すといわれている。このようにスポーツ競技選手には、性格に特性があるといわれている。また、タッコとオグリビー (Tutko & Ogilvie, 1996) によると、優秀な選手にも性格に特性があるという。また、徳永 (2005) らの研究によれば、競技レベルの違いによっても、特性に差があるという報告をしている。そこで本研究では、バドミントン競技選手を参考に、スポーツ選手の性格にどのような特性があるか、また男女間において、競技成績の違いによって差はみられるのかを明確にすることを目的とした。

<実験方法>

対象：早稲田大学体育会バドミントン部の選手（男子9名女子10名）と慶応義塾大学体育会バドミントン部の選手（男子10名女子5名）に協力を依頼し、アンケート調査を実施した。
方法：質問紙DIPCA（心理的競技能力診断検査）と、NEOFFI（人格検査）を用いて調査をする。DIPCAは、アスリート用の心理検査であり試合場面で実力発揮をするために必要な能力を測定するものである。NEOFFIは、人格を5つの次元（神経症傾向、外向性、開放性、調和性、誠実性）から把握するものである。

なお、調査結果、資料等は本研究以外の目的には一切使用せず、被検者の個人情報、責任を持って管理することとする。

競技成績に差がある2校で性格特性にも違いはみられるか、また男女によつての差があるのか分析する。

<統計処理>

統計処理には全てSPSS 12.0 (SPSS Japan) を用いた。

学校間の比較および男女間の比較について、t検定による平均値の比較を行った。

また、競技成績ごとの心理的競技能力診断検査の得点の変化については、一元配置分散分析を行い、tukeyの方法による多重比較検定を行った。

いずれの検定も危険率 $p < 5\%$ をもって統計的に有意とした。

<結果>

DIPCAテストにおける両校間の比較を行った結果、「忍耐力」の項目において有意差がみられ、その他の項目に有意差はみられなかった。次に、男女間での比較を行った結果「忍耐力」の項目において有意差がみられた。その他に項目に有意差はみられなかった。最後に、競技成績別に比較を行った結果、どの項目においても有意差はみられなかった。

NEOFFI検査でも同様に比較を行った結果、どの項目においても両校間、男女間での有意差はみられなかった。競技成績別に比較を行った結果、「開放性」の項目において有意差がみられた。

<考察>

本研究の結果から、次のことがいえる。学校別では早稲田大学のほうが慶応義塾大学よりも「忍耐力」の項目において有意に高得点を示していることが分かった。「忍耐力」の項目は、苦しみやつらさなどに耐える能力である。これは、早稲田大学の選手のほうが全国大会に出場している選手が多く在籍しており、これまでの厳しい練習や、試合での経験の中で身につけてきたものだといえるだろう。男女間においては「忍耐力」の項目においてのみ有意差がみられ、男子のほうが女子よりも「忍耐力」において優れていた。この結果から男子選手の方が女子選手に比べて、つらい練習や厳しい練習に耐えられると考えられる。競技成績別に比較した結果「開放性」の項目において有意差がみられた。この結果から、競技成績の高い選手ほど、開放性があるといえる。開放性とは、内的・外的世界への好奇心や関心の度合いが高いことを示す。試合という大舞台で、結果が出せるということは、そういった緊張した場面でも挑戦する気持ちをもって思いっきりプレーすることができるからであろう。競技成績の高い選手の方が、いろんなことに対して結果を恐れないで挑戦していく気持ちが強いといえる。